

第17回

波止場 てつが かふく

特別企画

「震災後文学を東京で読むこと」

東日本大震災から6年半。風化させない、忘れない、と言いつつも、否定もなく震災の記憶は抜けていくと実感します。たとえ「東日本」に暮らしているのも、とりわけ生活の基盤が、あっといふ間に以前の日常を取り戻した「東京」にあるのなら。

地震とそれに続く原発事故については、怒濤のような報道に続いて、たくさんのドキュメンタリー映画が制作され上映されました。その後、震災はフィクションの題材にもなっていき、映画や、そして「震災後文学」と呼ばれる一群の文学作品も登場しています。それらを見たり読んだりすることで、被災地から離れた場所に住むわたしたちも、震災そのものや、被災するとはどういうことかについての一部を知ることができます。そしてそれぞれの立場から、何らかの思いを抱くことと思います。

が、いざそれらの作品を前に何かを語ろうとすると、どんな言葉で何を語ればよいのか思いあぐね、口ごもったり黙ってしまったります。そんなことはないでしょうか。一体何がわたしたちをそうさせてしまうのでしょうか。

そこで、今回は震災を扱った作品を前にした「自分」について、話し合ったり聞き合ったりする対話の場を作りたいと考えています。

対話の入り口として、震災後の福島をテーマに小説を発表し続けている作家・志賀泉さんの最新作「花火なんか見もしなかった」をとりあげます。これは、読みやすい作品かもしれないけれど、もしかしたら感想を言いやすい作品ではないかもしれません。

わたしたちを口ごもらせるものがあるのだとしたら、それは作品の中にあるのか、わたしたちの中にあるのか。そんなところから、話していってみたいと思います。

*プログラム

【第一部】 作家トーク&朗読 (ゲスト: 志賀泉さん)

作家自らに作品について語っていただきます。特別映像の上映も予定しています。

【第二部】 てつがくカフェ

「震災後文学を東京で読むこと」について、参加者で語り合い聞き合います。

*参加にあたって…当日開始までにテキストを読んでからご参加ください。

1. 当日 13 時よりエイブル・アート・ギャラリーにてテキストを配布します。

→ 好きな場所でお読みいただき、14 時までに会場にお戻りください。

2. テキスト掲載の文芸誌「吟詠掌編 vol.2」を事前に購入することもできます。

→ amazon.co.jp または、けいこう舎 (<https://ginjosyohen.jomdo.com>)

定価 800 円 (消費税、送料別)

*作家と作品の紹介

志賀泉 (しが・いずみ) 1960 年、福島県南相馬市生まれ。福島県立双葉高校、二松学舎大学文学部卒。2004 年「指の音楽」で第 20 回太宰治賞受賞。著書に『TSUNAMI』『無情の神が舞い降りる』(筑摩書房刊)。震災後は福島を舞台にした作品を次々に発表。最新作「花火なんか見もしなかった」は、小学校を卒業する日に被災し、自分の根っこを断ち切られてしまった福島の少年少女たちの物語。また、福島を舞台にしたドキュメンタリー映画の制作にも携わっている。

ブログ <http://ameblo.jp/skgahina/>



吟詠掌編 vol.2